図が小さいので、大きく拡大して読んでください。

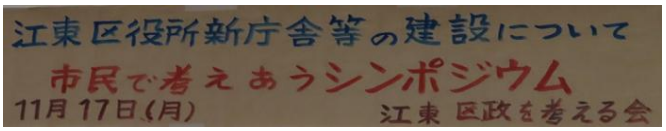
舟　は　スローライフ・持続可能社会　の　先進役　　2025 年 11 月

お 江 戸 舟 遊 び 瓦 版　1135 号

水彩都市江東　　こころ美しい日本の再生　　安全・安心まちづくり

お江戸観光エコシティー・お江戸舟遊びの会　　江東区千田 13-10

江東区新庁舎等建設に関するシンポジウム



日時：11 月 17 日（月）　18：45～21：00
場所：江東区産業会館　第 5･6 展示室
主催：江東区政を考える会

1．計画概要の説明・基調提案　　河島事務局長

《新庁舎の基本理念・方針》

①あらゆる災害やリスクから区民の暮らしを守る

②すべての区民によりそう庁舎

③多様な交流を創出するとともに、区民と行政、地域間、江東区の過去と未来をつなぐ庁舎

④最先端の環境性能、水、緑、木材など、区の特徴をいかしたシンボルとなる庁舎

⑤長期的な財政負担に配慮する。時代の変化に柔軟に対応する、変わり続ける庁舎

《新庁舎建設基本計画》　令和 7～8 年に策定予定

※基準面積約 40,000 ㎡を想定（駐車場・駐輪場、交流・協働、賑わい機能・複合化施設を含まず）。

(1)防災機能の強化：災害対策本部機能、震災・浸水リスク対応で江戸川区新庁舎をモデルに。

(2)交流・協働：多様な人が暮らす・多様な交流を創出する。

(3)複合化：近在の保健所、子ども家庭支援センター、教育支援課、東陽図書館の複合化を検討。

《江東区政を考える会の基調提起》

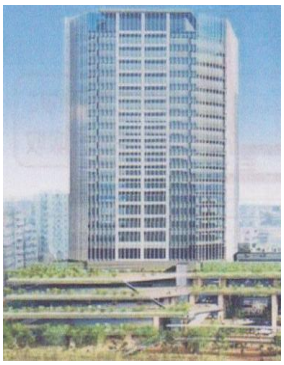
ⅰ.豪華すぎる新庁舎建設：物価高騰の時、見直し・緊縮内容に、透明性あるプロセスを監視していく。

ⅱ.区民の暮らしや営業、保険料対策を一番にすべし。区の基金の使い方に姿勢転換を。

ⅲ.不正の温床となってきた契約事業、談合や企業癒着のない清潔で透明性の高いプロセスを。

2．新庁舎建設構想を防災の視点で考える　中瀬勝義（北砂アカデミア防災塾、技術士）

参考の江戸川区新庁舎イメージ



①基本計画概観：地震・水害時に対策本部が万全に機能発揮する新庁舎建設。

参考とする江戸川区新庁舎は日本一の防災庁舎として 10m の浸水にも耐えられるよう事務棟は 10m以上に配置する。10mまでは駐車場棟（２～４階)、その上に免震層を設け、完全な耐震構造とする。

②この計画が生まれた根本原因＝首都を襲う荒川氾濫

江戸川区はハザードマップに「ここにいてはダメ」と最大 10m の浸水、１・２週間継続を記し、水害リスクを包み隠さず公表しなければ、早期の広域避難が実現できないと考え、この考えを新庁舎構想に適用した！

③地盤沈下：関東大震災時 0mはなかったがその後工業が発達、地下水を揚水、地盤が沈下、江東５区災害最大課題が誕生した。

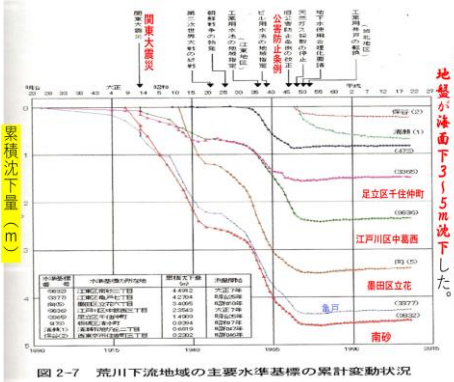
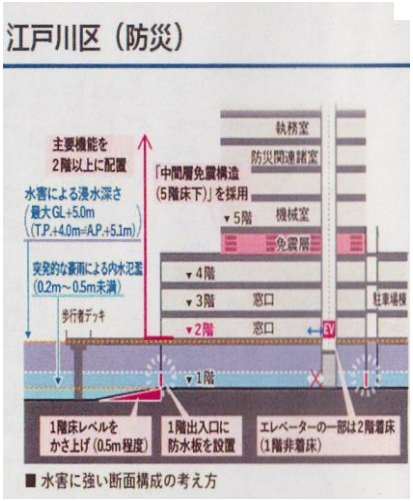
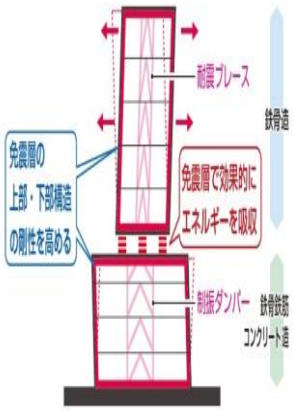


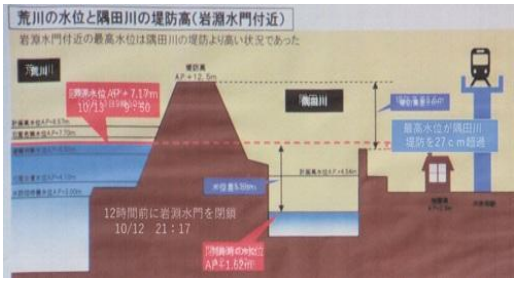
図 2-7　荒川下流地域の主要水準基標の累計変動状況



■ 水害に強い断面構成の考え方



■ 免震層のエネルギー吸収効果を高める構造形式



④最近の荒川氾濫と耐震工事：2019 年台風 19 号時、隅田川は決壊寸前だった。荒川の水位は最高時、隅田川の堤防の天端より高く、岩淵水門を閉鎖して下町は助かった。

そのためにも堤防強化工事が進められている。

⑤国交省荒川河川下流事務所 YouTube『荒川氾濫』

荒川下流では荒川氾濫はまだ襲来していないので、連想するために、公開されている『荒川氾濫』を観ることが最適・必要だ。

⑥水害対策：　　フィクションドキュメンタリー「荒川氾濫」 H29 3 改訂版

ⅰ.水害避難支援システム：中央大学有川研究室開発の水害避難支援システム（各自のスマホに避難コースが出て、それに従って逃げることができる）を開発している。この技術を江東 5 区にも適応し、下町地区水害避難支援システム構築研究が期待される。

ⅱ.江東 5 区マイナス地域防災研究所、　　ⅲ.地域創生・防災省

ⅳ.抜本的解決策案：大移住『ゼロメートル地帯を湿原に』

⑦地域の防災活動：災害列島化している各地災害を住民が体験し、荒川流域防災住民 NW 等、防災活動が広がっている。

3.交流・協働：　　木庭みち子（江東・こどもの健やかな育ちを支える区民の会）

- 交流は文化センターの基本的役割。交流・待ちスペース、食堂・憩機能、区民への情報発信基地。
- 大空襲被害の苛烈な被災地としての歴史や、「平和都市宣言のまち江東区・平和祈念室」常設を。

4.複合化：　　内田敬三（江東区職員労働組合元委員長）

- 保健所は新型コロナ感染の教訓から新庁舎編入は当然と捉えたい。
- 教育センター・東陽図書館・東陽子ども家庭支援センターについては、区民の意向を十分踏まえて検討すべき。

質疑応答から：日頃の防災対策の充実を。防災センターは建て替えやむなし。外国の方にも使いやすいものに。学校でも外国籍の子が増えている。東陽図書館はガラス窓から児童コーナーを見ることが出来て入りやすく、そこを無くすのは如何なものか。建築家やコンサルタントは現場で利用する人が使いやすいようには考えない感がある。高層ビル方式はエレベーター等問題が多い。防災備蓄品は現在の 1 階から高層階へ。水・食料・トイレ等充実すべし。

江東区は区民の声を聞くことを軽視する傾向がある。他の区では 100 人委員会を作り皆で考えている。新庁舎が立派になっても災害対応できるか疑問。駐輪場が 2 階では高齢者に難しい。」

閉会挨拶：宇都宮健児（共同代表、弁護士）

- 庁舎は区民の民主主義の拠点だ。構想の段階から区民の声を聞くべきだ。避難所は女性視点・外国人視点を。ドイツは 1/3 が外国人と聞く、日本も排外主義克服を。役所に任せない民主主義を！

所感：新庁舎は、江戸川区の「100 年を支える日本一の防災庁舎」を参考に検討し、防災機能完璧を目指し、基本理念「あらゆる災害やリスクから**区民の暮らしを守る**」という希望・叡智が見えてきた。

この基本理念が江東区民を含む 250 万人の江東 5 区マイナス地域防災に広がるならば、区民あっての区政・区庁舎、日本一の防災庁舎・日本一の防災地域が誕生することになる。国・都・区・大学・企業・NPO・住民の連携が今こそ大切な時はない。下町の木密住宅や 1・2 階住宅の浸水防災対策、交通マヒ対策、1 階や地下階にあるスーパーやコンビニに食生活を依存している区民の食生活が維持されるだろう。**荒川氾濫浸水対策**を**十全**にし、誰一人取り残さない SDG s 精神を！　（文責　中瀬）

参照：浸水5m想定した江戸川区新庁舎の設計案をひもとく、水害対策への振り切り方 ｜ 日経クロステック（xTECH）